

令和7年度いずみ中央地域ケアプラザPDCAシート_公表用（事業計画書、事業報告書、事業実績評価）

ー総括表ー

◆ 事業計画

☐ 地域の現状と今後の方向性

担当エリアは住民主体の地域福祉活動が活発で、地域の福祉拠点である常設サロン「いこいの家」があります。また、住民間の支えあいの仕組み「ふれあいヘルプ」が実施されている等、泉区内でも先駆的な取組を実施している地域です。それ以外にも、8の各自治会町内会で高齢者サロンがあり、体操教室も9団体ある等、地域活動も盛んです。様々なお祭りやイベントも活発に実施されており、連合や地区社協・民児協が連携しながら積極的に福祉に取り組んでいる地域でもあります。これまで通り地域活動のサポートを行いつつ、店舗や薬局・医療機関等にケアプラザの役割を周知し、そういった場所とも互いに相談ができるような顔の見える関係作りを行っていきます。また、地域住民の支えあいだけでは取り組むことが難しい困難さ・課題の解決・改善に向けた事業を推進します。

☐ 今年度の重点的な取組

新規
継続

ー具体的な取組内容ー

- | | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|---|
| ☐ | ☒ | エリア内の教育機関（小中学校、保育園、幼稚園等）にむけて福祉教育の実施、ボランティア活動の紹介、交流を促進してまいります。 |
| ☒ | ☐ | エリア内には障害のある方が通う事業所が多いこと等も踏まえ、近隣の障害福祉分野関連事業所との情報交換・意見交換の場を設け、子ども・障害・高齢分野について更なる切れ目ない支援体制の構築を目指します。 |
| ☒ | ☐ | コロナ禍で一度関係性が薄くなった金融機関等や周知の手が届いていなかった薬局・医療機関に向けて、広報誌や包括支援センターチラシの配布によるケアプラザの周知を行いつつ、顔の見える関係性を築き、相互に相談しやすい体制づくりを目指します。 |
| ☐ | ☒ | 担当エリアにおいて、ヤングケアラーについての周知を目的とし、地域への講習会を実施。地域での支援を共に考えてまいります。 |
| ☒ | ☐ | これまで総合相談や、地域活動の場で寄せられた、買い物や通院等の課題について、地域ケア会議を開催します。地域課題を整理・明確化し、必要に応じて生活支援コーディネーターと連携し協議体の発足等、課題の改善に向けた取組を検討する場を設けます。 |

◆ 事業報告・事業実績評価

☐ 振り返り

継続して挙げている点については、引き続き小学校と協力しての総合学習の時間を活用した福祉教育の取り組みを行うことができました。ヤングケアラーについては、ヤングケアラーの周知啓発の研修会を連続して開催することで、内容をアップデートしつつ参加対象も徐々に拡大することができ、より効果的なものとなりました。

障害福祉分野との連携については、「生活支援センター芽生え」と「基幹相談支援センターかがやき」との情報交換会の開催をきっかけに、個別ケースにおいてケースを共有して協働し、スムーズな連携を図ることができるようになりました。

ケアプラザの周知については、薬局や医療機関に広報誌を置かせていただくことができました。また、その効果として、薬局でチラシを見た高齢者がケアプラザ事業につながりました。一方で金融機関や商店へ効果的なアプローチができず、顔の見える関係までつなげることができませんでした。次年度は、まずは実際に顔を出して反応を確認していきます。

買い物への支援については、生活支援コーディネーターが拾い上げた移動販売のニーズを地域ケア会議、協議体を通じて課題整理を行い、実際のサービスの創出につなげることができました。

☐ 区からのコメント

・高齢者の生活支援の充実に向けて、買い物支援に関する地域のニーズを把握し、地域ケア会議、協議体を通じて課題を明確化するとともに、移動販売を導入する等新たなサービスの創出に取り組んでいただきました。更に地域ケア会議等で検討を重ね、買い物支援における住民同士の共助を促すきっかけづくりも進めていただきました。今後も地域課題の把握・分析、社会資源の創出等、泉区アクションプランの推進にむけ各種取組の推進を期待しています。

・独自の工夫を生かし、キャラバン・メイト支援や地域での情報発信、サロン・民児協等への定期的な訪問など、地域に根ざした効果的な取組を継続できています。また、学校・企業との新たな連携や多様な課題に対応する研修開催にも主体的に取り組む、地域資源の活用と支援体制の強化に貢献していただきました。今後も地域との関係構築と専門職支援を進め、普及啓発や相談支援のより一層の充実を期待します。

・地域ケアプラザの場を活かしたこどもの居場所としての役割も果しています。また、ヤングケアラーについては、地域の日常の場の中で当事者がSOSを発信できる環境を整えることが必要です。引き続き、啓発及び地域ケアの視点での連携強化を期待しています。